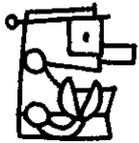




小 / 理科 / 6年 / 生物と環境 /  
植物の体とはたらき / 理解シート

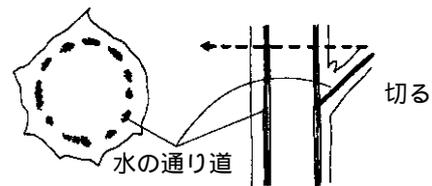
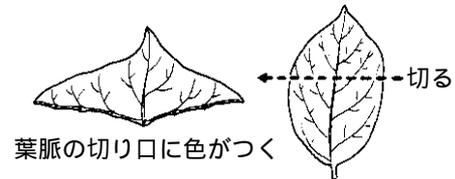
## す 根から吸い上げられた水は、どこへ行くの



吸い上げられた水は、植物の体内で使われ、あまったら、  
葉のあなから水蒸気すいじょうきになって出ていくのさ。

春から夏にかけて、植物がいっせいに新芽を出したり、大きく生長するころは、木や草は、大量の水や養分を、根から吸い上げています。くきや葉には、水や養分が通る管（道管という）があり、この管で、葉や花、くきの生長する部分などに、根から吸い上げた水や養分が運ばれます。色水にしばらくさしておいたくきや葉を切ってみると、色で、この管がわかります。あまった水は、葉の表面にあるあな（気こうという）から、水蒸気になって、空気中に出されます。

昼間、葉のついた枝に、ポリぶくろをかぶせておくと、ぶくろの中がくもってくることから、水蒸気が出ていることがわかります。



<色水を吸ったジャガイモのくきと葉

### 植物には、動物の血管とにた、水や栄養分を運ぶ管がある

葉では、根から運ばれた水と、空気中から吸収きゅうしゅうした二酸化炭素から、デンプンがつくられます。できたデンプンは、水にとけるものに変化して、栄養を運ぶ管し（かん 篩管という）を通して、成長している芽の部分や根、実、種などに運ばれます。

ちょうど、動物の体内で、食べ物からとった栄養が、血管を通る血液によって全身に運ばれるのと、よくにています。植物では、根から吸い上げた水を全身に運ぶ管と、葉でできた栄養を全身に運ぶ管が、別々になっているところが、動物とちがっています。